

令和 2 年度 (2020 年度) 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	9 1	学校名	茨城県立境高等学校					課程	全日制		学校長名			清田 聡		
教頭名	日向 久									事務 (室) 長名			秋田 剛			
教職員数	教諭	4 6	養護 教諭	1	常勤 講師	3	非常勤 講師	3	実習教諭 実習講師 実習助手	1	事務 職員	3	技術 職員	3	計	6 3
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	普通科			135	100	136	100	119	113			390	313	703		

2 目指す学校像

本校伝統の文武不岐の教育方針の下、豊かな人間性を培い、深い知性と逞しい心身を養うとともに、自主自立を涵養し、グローバル人材〔地球規模で考え、地域に貢献できる人材〕を育成する学校づくりを行う。 (1) 「生きる力」を身に付け、生涯にわたって学び続けるための基礎基本を身に付けさせる学校 (2) 進路指導を充実し未来を切り拓く力を育成しながら、幅広い希望進路を実現させる学校 (3) 規律を遵守する精神と望ましい生活習慣を確立させる学校 (4) 保護者・同窓会・地域と連携して生徒の健全育成に努める学校 (5) グローバル人材の素地となるスキルと感性を培う学校
--

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む)

項目	現状分析	課題
学習指導	「学びの基礎診断ツール」を通して 1・2 年生の学習状況を見てみると、家庭で平日 30～90 分学習する生徒は 59.1% (全国平均 49.6%) であり、学習習慣は比較的身に付いている。しかし英数国の学習理解度を見ると「少し分からないところがあり不安」「ついて行けず非常に不安」と回答した生徒は 38.8% (全国平均は 30.5%) と、学力定着に結びついていない。進路目標が希薄なこともあり、家庭学習の内容が宿題中心で「やらされている」感が否めず、成績が伸びていない。	生徒に基礎学力を身に付けさせるためには、授業に対して主体的に学ぶことができる環境を整えることである。ひとつにはアクティブラーニング型の授業の導入など、思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるための授業改善を行うことである。また、授業の目標や評価などを生徒に明確に提示することで予習を促し、「予習・授業・復習」のいわゆる黄金のサイクルを確立することが肝要である。
進路指導	入学時の進路希望は、大学が約 76% で専門学校が約 16%、就職が約 2% で残りの約 6% が未定である。学年が上がるにつれて未定者は少なくなり、大学進学希望者が増加するが、進学実績では、近年、大学進学者が若干減少し、専門学校進学者が増加する傾向にある。また、当初目標としていた国公立大学や中堅以上の私立大学受験を断念して、早期に指定校推薦などで私立大学に進学する生徒も少なくない。安易に進路希望を変更していく傾向が否めない。	生涯にわたって学び続けることの大切さを認識させ、キャリア教育の視点から各自の目指す将来像を確立し、希望する進路実現に向けて挑戦させる進路指導が必要となる。「入れる学校」「簡単に手に入る進路先」を選ぶ結果になるのではなく、学習の積み重ねにより実力をつけ、目指すべき進路先にチャレンジできる力を養う必要がある。
生徒指導	服装・頭髪がきちんとしてきている。大部分が落ち着いた学校生活を送っている。ただ、新たな生徒指導上の問題(スマホ・ネット関係)が懸念される。	マナーアップ事業を中心にした全職員の取組で共通理解を深め、さらなる規範意識の向上に努めたい。また、生徒一人ひとりの心の変化に気づけるよう、教職員の組織的な見守り体制を継続していく。

別紙様式 1 (高)

特別活動	部活動や学校行事での生徒会活動なども活発に行われている。部活動加入率は約65%である。多くの部活動が熱心に取り組んでおり、成果も上がってきている。	減り張りのついた学校生活を促し、学習活動との両立を目指させる。今後も部活動加入率の上昇を目指したい。また生徒が充実した高校生活を送れるように、キャリアパスポートの活用も合わせ、生徒会活動・生徒主体の学校行事の促進を図る。
学校の働き方改革	生徒一人ひとりの健全な伸長を図るため全職員が精一杯取り組んでいるが、業務が多岐にわたるため、疲弊感が出てくる可能性は否めない。	多岐にわたる業務を精選、組織化し超過勤務時間を減じ、職員の健康と福祉の確保及び学校教育の水準維持を図る必要がある。

4 中期的目標

1. 「生きる力」を身につけ、生涯にわたって学び続ける人の育成を目指す。 2. 初志貫徹の希望大学進学実現を推進し、国公立大学合格者15名と中堅以上の私立大合格増を図るため、進路指導の充実を目指す。 3. 規律ある生活習慣を身に付けさせ、主体的に自己の在り方生き方を追求できる能力育成を目指す。 4. 近隣中学校、地域住民、保護者、同窓会等と連携し、生徒の健全育成に努める。 5. グローカル人材〔地球規模で考え、地域に貢献できる人材〕の素地となるスキルと感性を培う。 6. 学校の働き方改革の意識づけを図る。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
「常に考える」生徒の育成	① 授業の工夫・改善に努め、読解力と思考力を育み能動的に学ぶ力を養う指導に取り組む。 ② チャイム着席を励行し、授業時間の確保に努める。 ③ 各教科の授業研究（授業公開等も含む）及び相互授業参観を積極的に推進する。 ④ 学習評価を研究するとともに、効果的な教育課程編成を進める。
初志貫徹の進路設計・進路実現	⑤ 進路情報の収集と適切・的確な提供をしつつ、効果的な進路指導に努める。 ⑥ 大学等と積極的に連携し進路意識の高揚を図る。 ⑦ キャリア教育の充実を図り、自己理解の深化と早期の目標設定ができることを目指す。 ⑧ 面談等を通して生徒の志望と個性・特性を見極めた適切な進路指導に努める。
正しい生活習慣の確立	⑨ 基本的生活習慣の涵養に努める。 ⑩ 服装・頭髪・容儀指導に努め、「さわやかマナーアップ事業」を推進する。 ⑪ 個別面談や教育相談を通じて生徒理解に努め、生徒との信頼関係構築に努める。 ⑫ いじめ等の未然防止と早期解決を図るための指導を行う。
学校生活の充実と「豊かな心」の育成	⑬ 健康教育の推進に努め、心身の健康及び安全の維持・増進を図る。 ⑭ 生徒会活動・部活動及び各種ボランティア活動など生徒の自主的・自発的な行動を積極的に支援する。また、それらの活動を通して、生徒のコミュニケーション能力を育む。 ⑮ 運動部活動・文化部活動の振興を図り、部活動参加者等に配慮した学習環境の整備に努める。 ⑯ 読書活動を積極的に推進し豊かな人間性を培う。
地域に信頼される学校づくり	⑰ PTA活動を充実させ、家庭教育の重要性の理解・啓発に努める。 ⑱ 保護者や地域住民等への授業公開を積極的に推進する。 ⑲ 近隣中学校や地域への広報活動及び連携強化を図る。 ⑳ 近隣小学校・中学校等への学習支援活動に積極的に取り組む。
学校の働き方改革	㉑ 多岐にわたる業務の精選、組織化に取り組み、超過勤務時間削減に努める。